

スタートアップガイド

箱を開けてから装置を使えるようになるまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

はじめに表面の使用上のご注意を必ずお読みください。安全に関わる大切な注意事項が記載されています。

安全に関するご注意
装置をセットアップする前には、表面の使用上のご注意をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

警告
● ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
● 内部電源オプションの取り付け・取り外しは電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
● 雷が降り出したら電源コードに触らないでください。雷害による感電のおそれがあります。
● 本書および「ユーザーズガイド」に記載されている内容を厳禁、分解・修理・改造を行わないでください。

注意
● 持ち運びの際は装置の底面をしっかりと持って運んでください。(フロントマスクには手をかけないでください。)
● 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
● 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
● 電源コードはタコ足配線しないでください。

*本製品のマニュアル「ユーザーズガイド」は、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDの中にPDFファイル形式で格納されています。ここでは、本製品を安全に取り扱うための注意事項や、より詳しい説明が記載されています。また、PDFファイルは、インターネット上で無償で公開されている「Adobe Reader」で表示・印刷することができます。

Step 1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。



添付のCD-ROM (「EXPRESSBUILDER」や「バックアップCD-ROM/DVD-ROM」)は、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

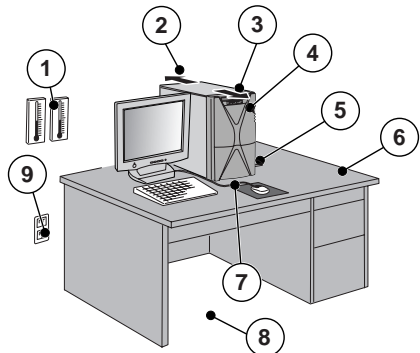
Step 2 ディスプレイボードを取り付ける

本装置にはグラフィックスアクセラレータボード(ディスプレイボード)が取り付けられていないものがあります。別売のディスプレイボードを取り付けてください。(装置背面にディスプレイコネクタがついている場合はステップ3へ進んでください。)

「EXPRESSBUILDER」DVD内の「ユーザーズガイド」または「ハードウェアクイックリファレンス」の「PCIボード」の項を参照してください。

Step 3 適切な場所に設置する

Expressワークステーションの設置場所を決めます。設置場所や設置の際の注意事項を示します。

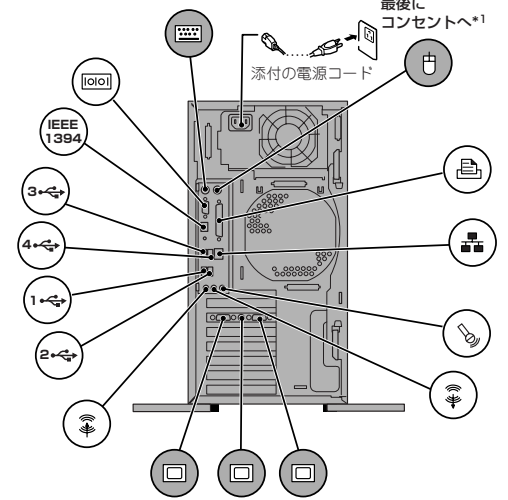


- 装置の動作時に室内温度10℃～35℃、湿度20%～80%の範囲で保てる場所(25℃を推奨)。
- 装置の後ろに150mm以上のスペースがとれる場所。
- フロントドアを開くことができるスペースを用意する。
- 持ち運びの際はフロントマスクに手をかけない。
- スタビライザを広げて装置を固定する。
- 水平でしようぶな机、または床の上。
- マウスやディスプレイ装置のケーブルが届く場所。
- ほこりや少ない、きれいで整頓された場所。
- AC100V、平行二極アース付きの壁付きコンセントのある場所。

Step 4 ケーブルを接続する

ケーブルをExpressワークステーションにあるコネクタ*に接続します。

* 本体前面にはUSBポートが2つあります(デバイスとのケーブル長は4m以内)。



アイコン	接続する機器
	キーボード*2
	マウス*2
	USBインタフェース機器(Hubなど) 数字はポート番号を示す
	シリアルインタフェースを持つ機器
	パラレルインタフェースを持つプリンタ
	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース機器(Hubなど)
	ライン入力端子を持つ機器 ヘッドホン端子兼用
	ライン出力端子を持つ機器
	マイク
	IEEE 1394インタフェースを持つ機器
	ディスプレイ装置*2

*1 電源コード接続時は数十秒ほど勝手に電源が入った状態になります。故障ではありません。
*2 初めてのセットアップでは、で示す機器だけを接続する。その他の機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続する。

Step 5 電源をONにする

前面のPOWER/SLEEPスイッチを押して電源をONにします。電源ON後にオペレーティングシステムのセットアップが始まります。本装置のハードディスクドライブには、Microsoft Windows Vista Businessまたは、Microsoft Windows XP Professional x64 Edition または、Microsoft Windows XP Professional がインストール済みです。

電源ON後、ディスプレイ装置にエラーメッセージが表示されたり、ビープ音が何度も鳴ったりしたときは、メッセージの内容やビープ音の鳴り方をメモして保守サービス会社に連絡してください。

- 本体のフロッピーディスクドライブや光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
- ディスプレイ装置の電源をONにした後、本体前面のPOWER/SLEEPスイッチを押す。ディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。
- 装置の構成やシステムの用途に応じて、BIOSのセットアップをする。

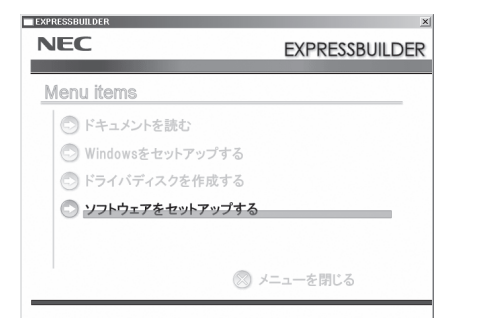


オプションのUPS(無停電電源装置)を接続している場合や管理ソフトウェアとの機能の連携をする場合にシステムBIOSの設定を変更します(通常は出荷時の状態で問題ありません)。設定を変更するために、起動後、すぐに<F2>キーを押してください。BIOS(Basic Input Output System)セットアップユーティリティ「SETUP」が起動します。

* 本装置は購入時のオーダーによって光ディスクドライブベイには、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブ、DVD Super MULTIドライブのいずれかが搭載されています。本書ではこれらをまとめて「光ディスクドライブ」と呼んでいます。

Step 6 バンドルソフトウェアのインストールとセットアップをする

Windows2000+IE6.0、WindowsXP、VistaまたはWindows Server 2003 が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」DVDをセットすると、オートラン機能により自動的にメニューが起動します。「EXPRESSBUILDER」にはExpress5800シリーズが提供するシステム全体の運用管理を行うための各種ユーティリティが収録されています(オペレーティングシステムのセットアップの際に選択したアプリケーションはハードディスクドライブにインストール済みです)。これらのユーティリティを利用したTCO(Total Cost of Ownership)の削減、重大障害の未然防止、障害からの早期復旧を実現するために、ご使用になる環境に合った状態にセットアップしてください。



ハードウェアクイックリファレンス

注意 ハードディスクドライブはオペレーティングシステムのセットアップ(Step5の「電源をONにする」)を完了するまで増設しないでください。

カバー類

レフトサイドカバー

内蔵デバイスの取り付け/取り外しの際は、左側のカバーを取り外します。

- ネジ1本を外す。
- レバーを開く。
- 本体後方へ少しスライドさせてから取り外す。

取り付けの際は、カバーにある複数のフックを本体のシャーシにあるフックを受ける穴に差し込んでからスライドさせてください。

フロントマスク

5.25インチデバイスの取り付け/取り外しの際に取り外します。

- リリースタブを上2個、下2個の順に押しつけてロックを解除する。
- フロントマスクをしっかりと持って手前に引いて取り外す。

取り付けの際は、フロントマスクと本体前面の位置を合わせてまっすぐ本体に押しつけてください。

ダクト

オプションCPU、オプションメモリの取り付け/取り外しの際に取り外します。

- レフトサイドカバーを取り外す。
- 左側面が上になるように本装置をしっかりと両手で持ち、ゆっくりと倒す。
- ネジ1本を外して取り外す。

システム構成

- 冷却ファン(リア)
- 電源ユニット
- メモリ用ファン
- ダクト
- スピーカ
- 光ディスクドライブ
- 冷却ファン(VR用)
- 冷却ファン(フロント)
- マザーボード
- グラフィックスボード
- 5.25インチデバイスベイ(一番上に光ディスクドライブを標準装備)
- 3.5インチフロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブベイ
- 3.5インチハードディスクドライブ
- 冷却ファン(フロント)
- マザーボード
- グラフィックスボード

ハードディスクドライブ

取り付けるスロットとハードディスクドライブの設定を確認する。

1台目: 下段
2台目: 中段
3台目: 上段

ネジはハードディスクドライブに添付のネジ(4本)を使用する。
装置に添付のレール(取り付け向きを確認)

ガイドレールにレールを確実に差し込む。

レール

PCIボード

増設スロットカバーを取り外す。

ボードを取り付ける。
ボードのキースロットとソケットのキーを合わせてしっかりと押し込む。

ロングボードの場合は、装置内部にあるガイドレールにボードの端を通して固定する。

DIMM

DIMMは:

- 2枚単位で取り付ける。
- 同じ仕様のものを使用する。
- ソケット#1と#2→#3と#4→#5と#6の順で増設する。

- DIMMのキースロットとソケットのキーの位置を合わせ、垂直にまっすぐ押しつける。
- 左右のレバーを持ち上げて、DIMMをロックする。

5.25インチデバイス

- リリースタブを上2個、下2個の順に押しつけてロックを解除する。
- フロントマスクをしっかりと持って手前に引いて取り外す。
- 取り外したダミーカバーは大切に保管してください。
- デバイスベイカバーを取り外す。
- 本装置に添付のレールを取り付ける。
ネジはデバイスに添付のネジ(4本)を使用する。
レールの取り付け向きを確認
- 装置に取り付ける「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込む。

マザーボード上のパーツレイアウト

- DIMMコネクタ(上から #42→#22→#41→#21→#32→#12→#31→#11)標準で#11と#12にDIMMが搭載されている。
- プロセッサ(CPU)ソケット(括弧数字の後の数字はCPU番号を示す。1が標準CPU、2が増設CPU)。
- 電源コネクタ
- メモリファン用コネクタ
- CPUファン用コネクタ(括弧数字の後の数字はCPU番号を示す)
- フロントファンコネクタ
- POWER LED用コネクタ
- スイッチLED用コネクタ
- IDE1コネクタ(光ディスクドライブ用)
- VRファン用コネクタ
- SATAコネクタ(左から #4→#3→#2→#1)
- リチウムバッテリー
- SASコネクタ(左から #1→#2→#3→#4)
- RAID LEDコネクタ
- フロントUSB用コネクタ
- フロントIEEE 1394用コネクタ
- SATA RAID/CMOSメモリクリア用ジャンパスイッチ
- フロッピーディスクドライブ用コネクタ
- スピーカ用コネクタ
- PCIボードスロット(5スロット。上からPCI#1→PCI#2→PCI#3→PCI#4→PCI#5。)
- リアファンコネクタ

ケーブル接続図

<インタフェースケーブル>

光ディスクドライブ(標準装備)の下のスロットにIDEデバイス(SLAVE)を搭載したときに接続する

終端抵抗

MASTER SCSI ID0

3台目
2台目
1台目

IDEケーブル*1 FDDケーブル*1
SATAケーブル*2 SASケーブル*3
SCSIケーブル*4

*1 標準装備品。なお、光ディスクドライブは、購入時のオーダーによって、ケーブルの接続先が異なります。
*2 ハードディスクドライブの増設には別売のK410-145(00)ケーブルが必要です。
*3 ハードディスクドライブの増設には別売のK410-143(00)ケーブルが必要です。
*4 オプションのSCSIボードとSCSIケーブルが必要です。

<電源ケーブル>

電源ユニット

P3 P4 P6 P10 P14 P17 P11 P8 P15 P2 P7 P1

プロセッサ(CPU)

- CPUソケットの保護カバーを外す。
- ソケットのレバーを反対側に倒す。
- CPUソケットのカバーを持ち上げる。
- CPUをソケットの上について、ねいにゆっくりと置く。
- CPUソケットのレバーを閉じる。
- レバーをもとの位置に戻す。
- ヒートシンクをCPUの上に置く(ヒートシンクの向きに注意)。
- 固定用ネジ(4本)ネジ穴(4カ所)
- ネジ4本を締めてマザーボードに固定する。
- CPU#2(増設用)冷却ファンコネクタ

商標について
EXPRESSBUILDERは日本電気株式会社の登録商標です。MicrosoftおよびWindows、Windows Vista、Windows Server、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。